



令和6年度「全国学力・学習状況調査」三股町の結果について

本調査によって測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ですので、この調査で児童生徒の学力の全てが分かるものではありません。

三股町教育委員会といたしましては、この結果を分析し、各学校の取組のよさを充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善をより一層推進してまいります。

また、児童生徒の健やかな成長のために、家庭や地域の皆様の御協力が必要不可欠ですので、今後とも各学校への御理解と御支援をお願いいたします。

1 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の概要について

- 実施日 令和6年4月18日（木）
- 対象 小学校第6学年及び中学校第3学年
- 目的
 - ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 - ・ 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 - ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査の内容
 - (1) 教科に関する調査（国語、算数・数学）
 - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等
 - ※ 調査問題では、上記①と②が一体的に問われている。
 - (2) 生活習慣や学校環境等に関する質問紙調査
 - ・ 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査）
 - ・ 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

2 結果の表記について

「本町の結果概要」において、実施教科や児童生徒質問紙等の結果については、県や国の平均正答率等をもとに以下を基準として表記しています。

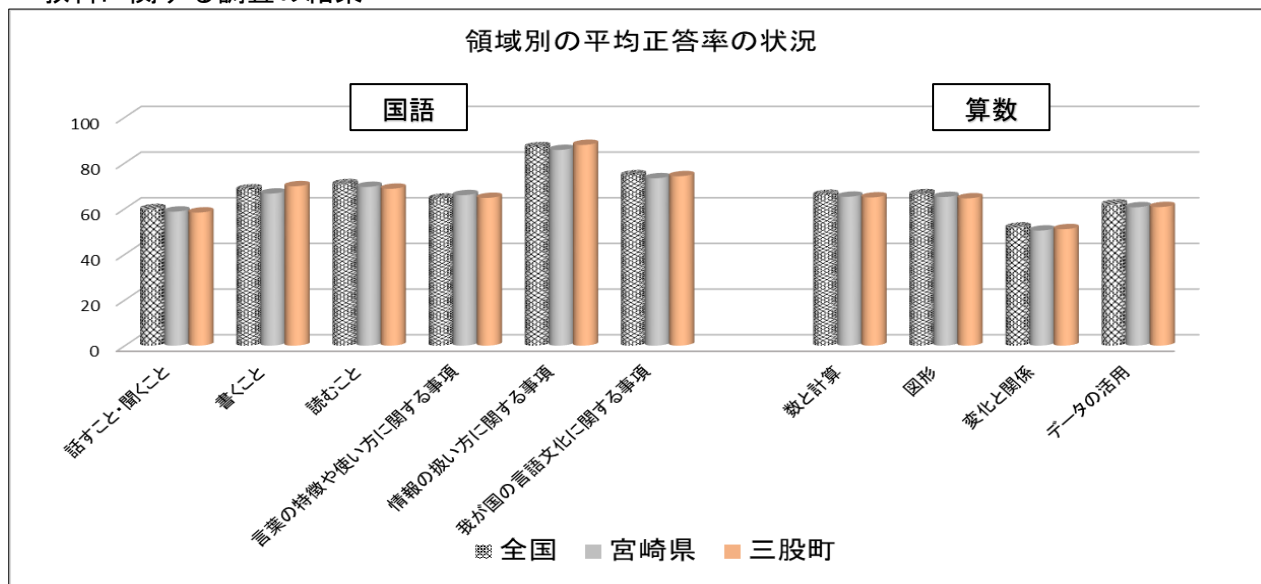
ほぼ同程度・・・・・・・・平均との差が±3未満

やや高い(低い)・・・・平均との差が±3～5未満

高い(低い)・・・・・・・・平均との差が±5以上

■ 本町の結果概要
 (1) 小学校

ア 教科に関する調査の結果



■ 国語の平均正答率について

領域等	全国と比較して	県と比較して
全体	ほぼ同程度	ほぼ同程度
話すこと・聞くこと	ほぼ同程度	ほぼ同程度
書くこと	ほぼ同程度	やや高い
読むこと	ほぼ同程度	ほぼ同程度
言葉の特徴や使い方に関する事項	ほぼ同程度	ほぼ同程度
情報の扱い方に関する事項	ほぼ同程度	ほぼ同程度
我が国の言語文化に関する事項	ほぼ同程度	ほぼ同程度

■ 算数の平均正答率について

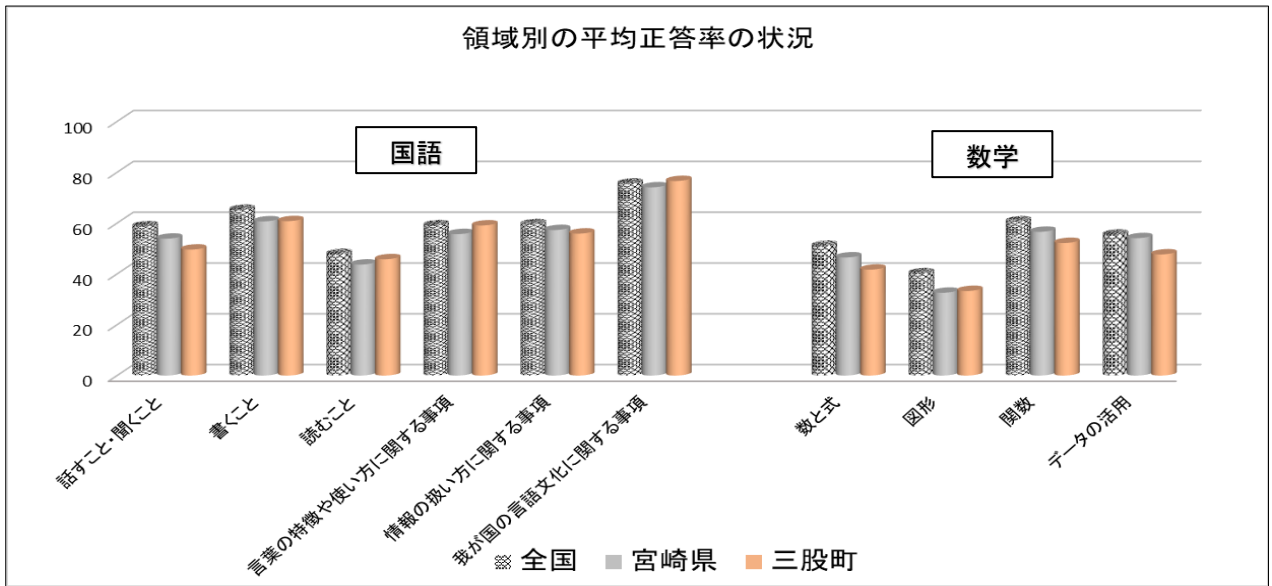
領域等	全国と比較して	県と比較して
全体	ほぼ同程度	ほぼ同程度
数と計算	ほぼ同程度	ほぼ同程度
図形	ほぼ同程度	ほぼ同程度
変化と関係	ほぼ同程度	ほぼ同程度
データの活用	ほぼ同程度	ほぼ同程度

イ 児童質問紙の結果（肯定的な回答の状況） ※①～⑥の番号は本表における便宜上の番号です。

質問事項(抜粋項目)	全国と比較して	県と比較して
① 自分には、よいところがあると思いますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度
② 将来の夢や目標を持っていますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度
③ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度
④ これまで、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	ほぼ同程度	ほぼ同程度
⑤ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度
⑥ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度

(2) 中学校

ア 教科に関する調査の結果



■ 国語の平均正答率について

領域等	全国と比較して	県と比較して
全体	やや低い	ほぼ同程度
話すこと・聞くこと	低い	やや低い
書くこと	やや低い	ほぼ同程度
読むこと	ほぼ同程度	ほぼ同程度
言葉の特徴や使い方に関する事項	ほぼ同程度	やや高い
情報の扱い方に関する事項	やや低い	ほぼ同程度
我が国の言語文化に関する事項	ほぼ同程度	ほぼ同程度

■ 数学の平均正答率について

領域等	全国と比較して	県と比較して
全体	低い	やや低い
数と計算	低い	やや低い
図形	低い	ほぼ同程度
変化と関係	低い	やや低い
データの活用	低い	低い

イ 生徒質問紙の結果 (肯定的な回答の状況)

※①～⑥の番号は本表における便宜上の番号です。

質問事項(抜粋項目)	全国と比較して	県と比較して
① 自分には、よいところがあると思いますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度
② 将来の夢や目標を持っていますか	やや高い	ほぼ同程度
③ 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	高い	ほぼ同程度
④ これまで、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	やや低い	ほぼ同程度
⑤ 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度
⑥ 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	ほぼ同程度	ほぼ同程度

(3) 考察

ア 本町の特徴

- 三股町の児童生徒質問紙調査の結果（抜粋項目①～⑥）においては、県の特徴と同様に①～③について肯定的な回答をした割合が、全国平均と同程度か上回っていました。また、③「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問については、小・中学校ともに全国平均を上回っていました。
- ④～⑥の「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に関する質問事項においては、小学校では全ての質問項目で全国平均とほぼ同等の範囲内で、昨年度から引き続き高い数値となっていました。中学校では、⑤「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」という質問については、全国及び県平均を上回っていました。
- 実施教科の調査結果においては、小学校は全国平均とほぼ同等でした。中学校は、国語で県平均を上回っていましたが、数学については県の特徴と同様に全国平均との差が見られました。

イ 考察及び今後の取組

町内学校の調査結果を見ると、「児童生徒質問紙の結果」（抜粋項目）における肯定的な回答の割合が比較的高い状況でした。各学校において「主体的・対話的で深い学び」の視点から積極的な授業改善が行われていることが、児童生徒の意識傾向にも表れているものと考えられます。

また、質問事項①～⑥の結果が全体的に高い学校において、「教科に関する調査の結果」における平均正答率も高い傾向が見られました。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善によって児童生徒主体の授業へと転換を図っていくことが、児童生徒が学び合いを通して自己肯定感や貢献意欲を高めることにつながり、加えてこれからの社会に求められる資質・能力の育成（学力向上）にもつながっているものと考えられます。

現在、町内の各小・中学校は、相互に他校の授業改善や取組のよさを共有するなど、縦と横のつながりの更なる強化に努めているところです。三股町教育委員会としましては、今後も県教育委員会と連携して「ひなたの学び」をより一層推進することによって、各学校における「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った児童生徒主体の授業の実現及び充実を図ってまいります。

これらのことにより、これからの社会に求められる資質・能力（三つの柱である「学びに向かう力、人間性等」「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」）を児童生徒にバランスよく育成し、本町が目指す「未来を創る心豊かで活気あふれる文教三股の人づくり」の具現化を図ってまいります。



【三股町学力向上研修会の様子(教材研究の演習)】

